

2021年1月6日

各 位

大阪信用金庫
理事長 高井 嘉津義

定例調査：第186回 景気動向調査（10～12月期）

- ☆猛威の第3波 視界不良・・・売上DI Δ53.6
- ☆設備投資限界？・・・「予定あり」3期連続減少
- ☆ウイルスに翻弄される事業・・・「売上停滞減少」73.1%
- ☆業績と「人材」確保のジレンマ・・・賞与「支給する」66.8%

●猛威の第3波 視界不良・・・売上DI Δ53.6

総合では、売上DIが-53.6（前环比+5.8ポイント）、収益DIが-51.1（前环比+9.1ポイント）となり2期連続の上昇となりました。売上DIは、小売業が16.5ポイント、運輸業が15.9ポイント、卸売業が13.6ポイント上昇しましたが、飲食業では0.6ポイントに止まりました。2021年1-3月期は、売上DIが3.9ポイント、収益DIが7.3ポイント下落すると予想しています。中でも小売業、卸売業、サービス業では売上DIがそれぞれ13.2ポイント、12.1ポイント、7.9ポイント更に下落すると予想し、需要の回復や年末商戦で持ち直した企業もありますが、第3波の感染再拡大を受け、先行きに大きな不安を抱えています。

●設備投資限界？・・・「予定あり」3期連続減少

設備投資は、総合では「実施中」10.8%（前环比△0.6ポイント）、「予定あり」9.7%（前环比△0.7ポイント）で合計20.5%（前环比△1.3ポイント）となりました。特に「予定あり」は、6月期から3期連続減少（△1.4ポイント）しています。

「実施中」+「予定あり」は、建設業、卸売業ではそれぞれ21.5%、19.1%と前回から増加しましたが、製造業や小売業、サービス業では減少し、飲食業は8.3%（「実施中」ゼロ）まで落ち込みました。資金調達方法は、「全て自己資金」が45.4%を占め、小規模な設備投資が中心です。設備投資内容は、「機械等の新設・増設」や「事務所、店舗、工場等の新設・増設」が多く、ウィズ・コロナ時代を見据えた前向きな設備投資も見られます。

●ウイルスに翻弄される事業・・・「売上停滞減少」73.1%

経営上の問題点は、総合では「売上停滞減少」が73.1%（前环比△4.5ポイント）となり、依然、最重要課題となっています。特に製造業、飲食業ではそれぞれ84.7%、83.3%と高く、新型コロナウイルスに翻弄され苦戦が続いています。運輸業では「人手不足」、不動産業では「競争激化」が最大の問題点となるなど、業種間でバラツキが見られました。

●業績と「人材」確保のジレンマ・・・賞与「支給する」66.8%

冬季賞与は、66.8%（前环比+0.6%）の企業が支給しますが、支給金額は「10万円未満」が15.8%（前环比+7.9ポイント）、「20～30万円未満」が25.4%（前环比△7.9ポイント）、「10～20万円未満」が27.9%（前环比△1.6ポイント）となり、支給金額は減少しています。飲食業や製造業は、売上DIがそれぞれ-75.7、-60.7と厳しい状況が続いていますが支給する企業は増えており、人材確保や流出防止のため、やむを得ず支給に踏み切っていると思われます。

調査時点：2020年12月上旬
対象期間：2020年10～12月期（実績） 2021年1～3月期（見通し）
対象企業：当金庫お取引先1,734社（大阪府内、尼崎市）
回答企業数：743社（回答率42.8%）（新型コロナウイルス感染症対策のため郵送で回収）

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所（担当：平山）
TEL：(06)6775-6590 FAX：(06)6772-1630

E-mail：souken@osaka-shinkin.co.jp URL：<http://www.osaka-shinkin.co.jp>